

学体連会報

発行日 平成 3 年 3 月 3 1 日
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人 日本学校体育研究連合会
 電 話 (03)3465-3954・7464
 発行者 会長 大石 三四郎

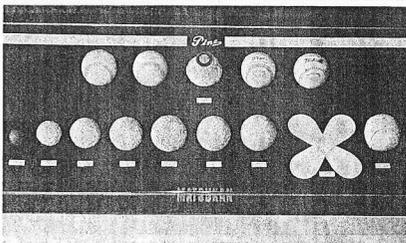
91才の剣道教師

会長 大石 三四郎

埼玉県北部羽生市に剣道指南 興武館 館長 剣道範士 九段 小沢 丘 という看板が道路の横に立てられている。91才の先生は東京高等師範学校（現筑波大学の前身）で剣道を学ぶとともにア式蹴球（サッカー）の選手もしていたのである。私が東京高等師範の生徒であった昭和9年から12年の東京六大学のOB戦に出てきてくれたことをおもいだす。私が東京教育大学教授時代に編集した新体育学講座にも剣道と言う書物を出していただいたことがある。先生の写真の上着は東京オリンピックのときの役員の制服である。私が道場を訪ねたときも少年剣士が多く集まっていた。聞くところによると小沢先生の先代愛次郎氏は衆議院議員であったとのこと。私は羽生市の隣の加須（かぞ）市の埼玉短期大学の学長をしている。私の大学も負けずに生涯学習センターをつくってスポーツの公開講座を開いて小沢先生に負けずにやりたいとおもっている。

この小沢邸の取材はまことに不思議な機会からであった。この2月26日に学体連の理事会の帰り赤羽の乗り換えで宇都宮線に飛び乗ったところ隣の人が話をしてきた。その人が有名な武道具製造松勘の松本 学社長だったのである。そこで聞けば小沢丘先生と親戚ということで早速案内をもらった。松勘では皮の手縫いということで硬式野球の球も製造しているという。ついでに工場内を見学させてもらったが、そこには華やかなスポーツをささえる底辺の人々の凄まじい努力があったのである。

ここで私は武具の臭いを消す努力をアイン（本会報の広告）に研究させてみたくなった。成功したらおなぐさみというところ、ご期待を乞う。



'90年度・学校体育の動向



理事長 浅田 隆夫

I

文部省では、'89年3月15日「新学習指導要領の告示」の公示について通達があり、「改正省令」で中学校の保健体育は選択教科となり、各学年の標準授業時数は、第1学年105時数、第2学年105時数、第3学年105～140時数となった。また、小学校の各学年の標準授業時数は、第1学年102時数、第2～第6学年はそれぞれ105時数となった。

さらに、文部省は、同年3月27日、新学習指導要領の全面実施（小学校・平成4年、中学校・平成5年）までの移行措置について、次官通達を出した。そのうち、体育・保健については、平成2年度から全部または1部を新学習指導要領によることができることとなり、その大要を示すと、以下の通りである。

- 小学校——ア 各運動領域の指導については、個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた指導が十分行われるようにすること。イ 「G保健」については、身近な生活における健康・安全に関する知識が日常生かされるようにすること。
- 中学校——ア 体育分野については、各運動領域の内容が、それぞれの領域の特性に基づいて地域や学校の実態及び生徒の特性等を考慮し効果的な指導ができるようにすること。イ 保健体育分野については、心の健康や生活行動と健康に配慮しながら個人生活における健康についての基本的事項の理解に重点をおいて指導するようにすること、となっている。

今回の「要領」の特色は、体育のあり方に関しては、生涯スポーツとの関係に関心が向けられており、この中でもスポーツの特性に応じて、そのスポーツ固有の楽しさや喜びを経験させる授業を工夫することにおかれている。そして、この喜びは、スポーツそれ自体の中にも含まれている楽しさ・喜びを問題にし、これを学習のねらいに位置づけている。

従来の「スポーツを楽しむ」とか、「授業を楽しくする」といったことは、授業の条件を整えた

り工夫したりしてスポーツを楽しく行わせ、その結果、体力が高まり技能が習得・向上することを意図しており、効果を期待しての手段に楽しさのねらいがおかれていたのである。

また、心の健康（精神機能の発達と健康）に関しては、スポーツを学習する過程では豊かな心やたくましい心を維持増進させていく経験内容がもちろん豊富に含まれている。スポーツ実施の中で心の健康に目を向け、体の問題とあわせて知識を与えることは、当然、保健体育が背負う役割でもある。

変動下における情報社会の中で、80年近い生涯を楽しく健やかに生きていかねばならないことを考える時、スポーツとの楽しい賢いかかわり方の中で生活力を培い、かつ、自分の心身の健康問題についても必要な能力や態度を培っていくことは大切なことである。もちろん、スポーツとのかかわりの中で生活力と健康を維持発展させていくことの学習は容易ならざる難問題だが、教育方法の開発に努力すれば、科学技術の発達に対応した教育機器の創造と相俟って、かなりの成果を期待することもできるだろう。

以上、文部当局の考え方を素描したが、次に、今次「要領」の改善点を要約してまとめたい。すなわち、「要領」の改善点は、おおよそ2つあげられる。1つは、運動の特性論を強調し、競争のスポーツと達成スポーツとを明示したことであり、2つには、「個」の重視をあげ、このためには社会変化に主体的に対応していく自己教育力と男女の区別を排して選択性の導入を試みたことである。

II

本連合会に'90年に、都道府県の体育研究団体から報告のあった体育研究校は、小学校49校、中学校48校、高等学校60校であった（'89年分）。

小学校のテーマは、「運動に興味をもち、楽しさや喜びを高めようとするもの」33%、「発達の特性に着目して適時性にねらいをおくもの」29%、「主体性や自主性、積極性の養成にねらいをおくもの」「意欲や気力、やる気を培おうとするもの」が

いずれも18%、「ねばり強さやたくましさや育てようとするもの」12%、「体力・技能づくりに関するもの」10%、「よりよい授業に向けて学習方法や指導法の改善を意図するもの」8%となっている。これらのねらいは、複合的なものが45%、単一的なものが53%、3つ以上のねらいが重畳しているもの2%の割合となっている。

中学校では、「個性の伸長や適時性にねらいをおくもの」29%、「効果的指導法の改善や評価に関するもの」17%、「主体性・自主性の養成にねらいをおくもの」15%、「スポーツ種目の指導法にねらいをおくもの」13%、「体力・技能づくりに関するもの」及び「意欲や気力を培おうとするもの」がともに10%、「生活体育を意図するもの」8%、「たくましさやねばり強さを育てようとするもの」6%となっている。そして、小学校の場合と同じく、これらのねらいが単一的なものが58%、複合的なものが40%、重畳しているもの2%となっている。

第29回大会（北海道）・「代表者会議」及び「理事・評議員会」における「全国大会開催地」についての『申し合わせ』

常務理事 藤崎 敬

平成2年度 都道府県 代表者会議

日時 2年10月17日（木） 2時～5時

会場 北海道札幌市市民会館 会議室

浅田理事長 「出席予定者が55名のところ、約50名ぐらい見えましたので始めます。議長は本部のほうでよろしいですか。それでは、神田・岡野常務理事で行います。」

あいさつ 大石会長「いよいよ明日から、北海道大会が始まります。地元の方、よろしくお願いします。」

浅田理事長 「本日の内容は、①4年度以降の開催地に付いて ②ブロックで四国・中国の理事の候補者 ③各県の事情を聞かせてください。」

【①のことについて】

理事長

「元年11月8日の資料と地区開催一覧の資料5をもとに、ブロックで話し合っていました。3年度は大分県に決まっています。4年度以降の開催地についてです。」

高等学校では、「発達の特性や個性の伸長にねらいをおくもの」「生活体育を志向するもの」「スポーツ種目の指導法にねらいをおくもの」がいずれも13%、「体力や技能づくりに関するもの」8%、「主体性・自主性の養成にねらいをおくもの」「保健学習をテーマにしているもの」「性教育に関するもの」「教材の選択性にねらいをおくもの」が、それぞれ7%、「効果的指導法」や「意欲・気力」「豊かな心・おもしろいやり心」「創作ダンス」「集団における助け合い」などにねらいをおくものが、いずれも5%となっている。また、これらのねらいが単一的なもの77%、複合的なものが23%となっている。

一般に、小・中・高等学校を貫く思想は、「運動に親しむ習慣づくり」におかれているし、研究テーマのねらいと取りあげる「運動種目」との間には、自ら深い関係がみられる。

今までの確認と質問がある。5分休憩後
東部の報告 北海道・石原（Hは平成の略）
「H5年以降は東・中・西のローテーションは守る。H5年は山梨県で引き受けていただける。H8年は東北6県で話し合っていたと、H11年は関東で引き受けていただけるのではないかと。北海道は時々入れていただく。3年前から準備ができるように、早目に決めていただく。」

中部の報告 静岡・斉藤

「H5年以降、東・中・西の原則を守る。H4年の中部で引き受けるのは北陸は本日富山しか出席してないので、12月まで待っていただきたい。北陸の4県で引き受けていただけないときは、東海・斉藤と近畿・林田で話し合う。H6年はH4年に北陸で受けないときは北陸とする。中部は、北陸・東海・近畿の順で回るということでお願いしたい。」

西部の報告 大分・石橋

「H5年以降、東・中・西でやってほしい。九州は4県、中国4県、四国3県がやっていないので、全部終るまで順番で開催する。その後は九州が8

県なので、中・四国が一回するとき、九州は2回する。

H7年は中国か四国、H10年はその反対の県、H13年は九州とする。」

理事長

「各ブロックをまとめていただき、ありがとうございます。どこも意向は、同じようですが年がたつに従い、人も変わりますので、申し送りを確実にやっていただきたい。ブロックがまとまる組織が必要です。イベントを行なって組織がまとまることをみんなで考えていきたい。これからは、ブロックごとに理事が選出されるようになればよいと願っています。」

平成2年 学体連 理事会・評議員会

日時 2年10月18日(金) 3時～5時

会場 北海道市民会館 会議室

会長のあいさつ

理事長 「議題は黒板に書いたようですが、中心の

議題は全国大会の開催地についてです。議長は例年会長にやっていただいておりますが、それでよろしいでしょうか。」

議長 「理事長に代表者会議の報告をしてもらいます。」

理事長 「昨日、代表者会議で東部・中部・西部の方にまとめてもらいました。——代表者会議の通り——」

「各地区ごとに一言どうぞ」

東部 「略」

中部 「H4年には北陸でやっていただくように、持ち帰っていただく」

西部 「略」

議長 「後で整理して、各県代表の理事に送ります。」

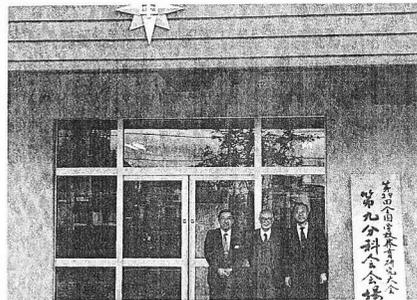
なお、これらの「申し合わせ」に基づき、本部では平成4年度以降の開催地について連絡、ほぼ決定をみるに至りました。これらの詳細については、後刻、お知らせいたします。

一分科会会場参観記一

〈会長 大石 三四郎〉

1. 星置養護学校 — 星置養護学校の玄関で石原金治北海道学体連会長、岡田信一養護学校長、大石三四郎と玄関での写真が上で下は研究授業の写真、右上貼付の報徳有想の色紙は岡田校長に国立特殊教育総合研究所長時代に校長研修記念に上げたもので校長室に飾ってあったものである。この授業をみて私は格別に涙が流れた。国際障害者年にその年の秋の園遊会で昭和天皇からお言葉を賜り、昨年春の園遊会で今上陛下から格別に予期しないお言葉を賜った。私が特総研の所長時代に学体連の研究部門に養護学部を設けてそれが今日この様な立派なかたちとなったのである。これらの成果の背後には北海道の障害者教育に対する熱心な強い姿勢がうかがえる。今後の全国大会でもこの養護学校部門の分科会の発展が期待される。

2. 八軒中学校 — ここでは時間の関係からダンスの研究発表の部だけを見せて頂いた。この方面のことは私にはよく解らない。高田真紀子先生の学習指導案を拝見して、その内容が立派なものには敬服し、私の勉強になった。特に生徒の実態の実証的な分析には頭がさがった。



〈理事長 浅田 隆夫〉

I 北海道恵庭南高等学校 — 道内公立唯一の体育科の高校で、男女共学・1学年30名定員・全日制(定時制もある)の教官数・町田幸雄校長以下59名(うち、保体の教官数・12名)。当初は体育大学の構想もあったとかでキャンパスの広いことと施設の完備していることは体育大学なみ。屋内体育館の隣りにはトレーニングセンターを有し、野外活動等の実習VTR資料もよく整備されており、4季を通じて自然に恵まれた北海道だけにその教育実習の充実ぶりが伺えた。参観したのは、バスケットボール18校時目(24校時中)研究授業でゲームの作戦や運営の技術にねらいがおかれていた。生徒の動きのよいが目立っていた。

II 大谷地小学校 — 教職員数・松本幸一校長以下32名(含・育休)・23学級(737名)。北海道のモデル校として施設・教育実績ともに評価の高い学

〈常務理事 神田 俊郎〉

第1分科会 札幌市立手稲中央幼稚園 校長 石川正美。研究主題「幼児が生き生きと体を動かし活動する指導の在り方」いきいきと遊べる子を教育目標に掲げ、その具現化をめざした、実践的研究の積み重ねが、子どもたちの動きの中から伺い知ることができた。特色として施設の利用、遊具の工夫が、子どもたちの活動に定着し、生活化されていた。参加者60名

第6分科会 札幌市立前田北小学校 校長 前田典廣 研究主題「一人一人がよりよい動きを求め高

〈常務理事 岡野 伊与次〉

第2分科会 札幌市立幌南小学校 校長 柳沼瑞甫 研究主題「自主的に学び続けひとり一人が高まる体育学習」掲げ、自発的な自己教育力を伸ばそうとする研究であった。参加者は150名、特にこの研究では、子供の思いを大切にいく個性理解から、子供の意欲を高め、ひとり一人の学びを確かなものにしていった所に特色があった。更に学習の形態を四つに定め、個性理解の上に立った計画も授業に取り組んでいる様子が明確であった。

校であることが、一目でわかった。研究授業は、低学年では『基本の運動』で「とんで遊ぼう・走跳の運動」と「平均台遊び — 器械・器具を使つての運動」、中学年では「なわとび」と「組み合わせマット運動(器械運動)」を参観した。本校の特色は、低・中・高学年の3つのブロックに分け、1校時にいくつかの学級が体育授業を同時展開するという方式が採用され(広い体育館を有していること)、6カ年間を通じて継続的な指導がなされているようであった。そのためか、子どもは「生き生き」として、各自体力・運動能力に勝れているように見受けられた。

一般に、北海道の学校は、小・中・高校ともに施設・用具が充実しているとともに学校環境が、いずれも豊かな自然に囲まれていることが特色で、児童・生徒にとっては、これ程幸せなことではないと感じ入った次第(以下、紙面の都合で略)。

め合って運動する体育学習」であり、参加者150名、開校10年目の学校で、創設期から充実期に入るのだという意気込みが、理念にうらうちされた研究の全体構造・実践に結びついた、研究組織で明確であり、子どもたちが、目を輝かせて授業に参加していた。

第7分科会 札幌市立西陵中学校 校長 山住一史 研究主題「自ら目標を持たせ意欲的に学習に取り組める授業をめざして」である。参加者100名、全校体制での研究推進であり、生徒たちが生き生きと、意欲的に、授業に参加している様子が伺えた。

第4分科会 札幌市立伏見小学校 校長 高桑章 主題「ひとり一人が自ら運動の楽しさを求め続ける体育学習」である。参加者は120名。近代的な明るい環境にある学校で、より多くの研究実績がある。研究の特色は、子ども自ら問題意識を持ち、追求の意識を高めるための教材を工夫したことである。第10分科会 札幌市立西岡北中学校校長 石田伸一 主題「運動する喜びを味わうことのできる体育学習」で参加者は約80名。開校3年目の学校で教職員が丸一となって研究している様子が目立った。

〈常務理事 藤崎 敬〉

幌南小学校では「個性を生かし強い意志で問題を追求し、ともに高まろうとする子どもを育てる」を重点目標とし、研究主題は「一人一人の個性が生きる学校の創造」として、子どもの教育活動で「総合活動の時間の内容充実、朝の活動の見直し、自主活動、チャレンジタイムの設置」等、子どもの個性の伸長をねらいとした教育課程改善を続けている学校である。

〈常務理事 松田 智男〉

第12分科会 札幌篠路高等学校 校長 村上 侃
参観者 65名

研究内容及び特色：校地面積5.4万㎡、33学級1,500名弱の大規模校、うち女生徒960名、体育科が作成した80pの学習指導計画に基づいて教科指導を行っている。研究授業は創作ダンスで女教諭の参加が多く、三宅教授の指導助言に耳を傾けていた。午後は研究発表と協議会が行われ、スキーに関するものが3件ありました。

発表会当日、体育館に200人以上の参観者が見守る中、6年の鉄棒運動の授業が行われ、4～5人の児童に分かれたグループが、助け合い・教え合いの学習を展開した。また、指導者の個別指導が行き届いたものであった。

授業を参観していた東京都の小学校長が、「子どもが学習の進め方をよく理解していて、自発的・自主的に学習している素晴らしい。他の教材も学習の進め方を知っているのでしょう」と話していた。

第13分科会 石狩南高等学校 校長 一岡信幸
参観者 78名

研究内容及び特色：校地面積5.6万㎡、33学級1,500名の大規模校、広い運動場のほか野球場とサッカー場をもち体育施設に恵まれている。研究授業は女子の平均台、公開授業は男子バスケット、女子砲丸投げ。午後はスキーとスケートの研究発表と協議会が行われました。

両分科会とも、真剣に授業を受けている生徒と研究熱心な先生方が目につきました。

第29回全国学校体育研究大会 北海道大会を終えて

北海道実行委員会事務局長
札幌市立西岡北小学校校長

金 井 孝



第29回全国学校体育研究大会は、去る平成2年10月18日、19日の両日、北海道は札幌市において5校種15分科会場で全国から約1700余名の参加者を迎えて盛大に開催されました。

本大会を開催するにあたりまして、文部省をはじめ日本学校体育研究連合会、北海道教育委員会、札幌市教育委員会の絶大なご支援をいただきました。

本大会は、昭和37年に第1回大会が千葉県で開催され、回を重ねて29回、北海道で開催されるのは、初の大会でありました。それだけに主管した道学校体育研究団体連絡協議会は、道内の学校体育研究諸団体が一体となつての大会運営でありましたが、5校種、15分科会に分かれての大規模大会は、各校種間の研究内容の違いや、北海道という地域の大きさから、統一主題に一本化した研究体制の確立や運営



大会を振り返って

には、準備段階から幾つかの困難点があったことは偽らざる事実でありました。

(1) 研究主題

21世紀を豊かに、たくましく生きる子どもの育成を目指す学校体育の在り方を求めて。

(2) 趣 旨

新学習指導要領の趣旨から、子どもたちが現在及び将来の生活に、進んでスポーツを取り入れ、それを楽しみとするとともに、生活を創造するスポーツへと発展させ、健康で、たくましく豊かな生き方を求めていくことが大切である。そのため学校における体育の授業、及び日常の体育的諸活動が、子どもたちにとってどのような経験の場となればよいのか、公開授業、研究発表、協議を通じ、今後の学校体育の充実、発展に資する。

(3) 研究大会の成果

本研究大会では、初日開会式に引続いてシンポジウムが行なわれました。

主題は「21世紀に向けた学校体育の課題」であり、司会者に駿河台大学教授の梅本二郎先生をお迎して、約2時間にわたるご討議をいただきました。

東京学芸大学教授の嘉戸 脩先生からは「新しい学習指導要領と体育指導の方向」についてご指導を

いただき、日本体育大学講師の具志堅幸司先生からは「競技スポーツと学校体育の在り方」についてご指導をいただき、順天堂大学助教授の武井正子先生からは、「健康、体力づくりと学校体育の在り方」についてご指導があり、北海道札幌新川高等学校校長の本間恒太先生からは「学校教育活動から見た学校体育の在り方」についてご指導がありました。いずれのご発言も新学習指導要領移行への重点課題を基にしたものとなしであり、白熱した討議が行なわれました。また、各分科会においては、各校種における体育指導の在り方や、課題に対して、検討、協議をすすめられたこと、そして学校体育が「活動すること自体が目的であり、何かの手段としての活動ではない」ということの意味が確認されたことは意義深いことでありました。また、北海道の地域性をあらわした、冬季体育の実践報告が多くみられたのも本大会の特色の一つであったと思います。最後になりましたが、ご参会いただきました方々に心から感謝を申し上げ、平成3年度の大分大会の成功を祈念いたしまして結びといたします。

次期大会 大分県から

大分県準備委員会会長
是 久 隆 一



題を設定いたしました。「運動のよろこびを求め、自ら進んで取り組む体育学習をめざして」

このことは、児童・生徒一人ひとりが、自己に適した運動を、そして個人の能力をどのように自分で求めていくかということにもなるかと考えます。全国の先生方のご指導をお願いいたします。準備につきましては、現在組織づくりを始め研究資料の検討等それぞれの部会で鋭意進めているところであります。開催期日は、平成3年11月7日・8日の両日で、大分市・別府市で13分科会に別れて開催いたします。菊香る豊後の地は全国各地から学校体育に関わっておられます先生方多数のご来分をお待ちしております。おわりになりましたが、開催にあたりましてご指導をいただいております文部省、日本学校体育研究連合会、昨年開催されました北海道大会事務局の皆様へ心からお礼を申し上げまして、第30回大会開催のごあいさつといたします。

平成 2 年度 理事・評議員一覧

No.	理 事		評 議 員	
	県 名	氏 名	動 務 先	氏 名
1	北 海 道	石原 金治	札幌市立円葉南中学校校長	札幌市立西岡北小学校校長 金井 孝 玉置 重美 北海道札幌南陵高等学校教諭
2	青 森	赤澤 正敏	青森県立八戸商業高等学校校長	花田 稔 青森県立青森高等学校教諭
3	岩 手			伊藤 章一 岩手大学教育学部教授
4	宮 城			山岸 哲夫 仙台市立広瀬中学校校長
5	秋 田			国井 和男 秋田市立秋田東中学校校長
6	山 形			大沼 英夫 山形県立東根工業高等学校校長
7	福 島			渡辺大賀司 福島大学教育学部教授
8	茨 城	小野田光明	茨城県立友部高等学校校長	松井 蕃 茨城県教育庁保健体育課体育係長
9	栃 木	猪野 清	栃木県立国分寺養護学校校長	岡本 彪 栃木県宇都宮高等学校教頭
10	群 馬			池田 正行 前橋市立荒砥中学校校長
11	埼 玉			鈴木 勲二 埼玉県立浦和高等学校校長
12	千 葉	荒川 昇	千葉県立八千代高等学校校長	齋藤 光 千葉県立稲浜中学校校長
13	東 京	小泉 周雄	東京都立城南高等学校校長	大野 幸男 品川区立第三日野小学校校長 松永 安誠 東村山市立第一中学校校長 川村 好秋 東京都立東高等学校校長
14	神 奈 川			百武 光洋 横浜市立万騎が原中学校校長 梶橋 仁子 神奈川県立上溝高等学校教頭
15	山 梨			保坂 孝造 甲府市立里垣小学校校長
16	長 野	内藤 慎雄	諏訪市立高島小学校校長	嘉生 稀宗 中野市立中野小学校校長
17	新 潟			渡辺 建夫 新潟県立村松高等学校校長
18	富 山			蔵 耕三 富山県砺波女子高等学校校長
19	石 川	元 達郎	金沢市立十一屋小学校校長	西浦 三郎 加賀市立勅使小学校校長
20	福 井			川上 啓治 福井県立勝山高等学校校長
21	岐 阜			田中 猛 岐阜県立長良高等学校校長
22	静 岡	齊藤 欣三	静岡県立清水西高等学校校長	田神 耕一 静岡県立富士宮北高等学校校長
23	愛 知			山梨 登 名古屋市立大須小学校校長 新屋 哲夫 愛知県立一宮高等学校校長
24	滋 重			辻村 侃三 伊勢市立進修小学校校長
25	滋 賀			福井 貢 滋賀県立湖南農業高等学校教頭
26	京 都	森田 喜雄	御所市立大正中学校校長	西 誠次 京都市立向島東中学校校長
27	大 阪	林田 昭喜	大阪府立清水谷高等学校校長	橘 中 吹田市立竹見台小学校校長 成富 昭義 大阪市立田辺中学校校長
28	兵 庫	上井 寛之	兵庫県立氷上高等学校校長	広瀬 勝一 兵庫県教育委員会体育保健課副課長 中谷 元紀 兵庫県教育委員会体育保健課学校体育係長
29	奈 良			北 良夫 奈良県立大淀高等学校校長
30	和 歌 山	中野 栄一	和歌山市立東和中学校校長	谷口 春美 和歌山県立和歌山商業高等学校校長
31	鳥 取			山田 一男 鳥取県羽合町立浜中学校教諭
32	島 根			石井 美己 松江市立第四中学校校長
33	岡 山			吉田 五平 岡山県立玉野光南高等学校校長
34	広 島			種村 重明 広島県立祇園北高等学校校長
35	山 口			河村 文人 岩国市立東中学校校長
36	徳 島			平尾 隆信 徳島市立高等学校校長
37	香 川			杉岡 保之 香川県立高松西高等学校校長
38	愛 媛			石丸 博 愛媛県立松山北高等学校校長
39	高 知			石黒 積男 高知市立潮江南小学校校長
40	福 岡	筋田 瑛一	福岡県立遠賀高等学校校長	丸林 弘行 福岡市立梅林中学校校長 西村 哲雄 福岡市立赤坂小学校校長
41	佐 賀			溝口 次男 佐賀市立赤松小学校校長
42	長 崎			坂田 正義 長崎県立長崎工業高等学校校長
43	熊 本			長崎 辰彦 熊本県立熊本西高等学校校長
44	大 分	石橋 干城	大分県立安岐高等学校校長	是久 隆一 大分市立坂の市中学校校長
45	宮 崎	増田 義一	宮崎市立西池小学校校長	久保田良一 宮崎市立榎中学校校長
46	鹿 児 島			松下 博人 鹿児島女子高等学校校長
47	沖 縄			玉城 諭 沖縄県立那覇高等学校校長

事務局だより

1) 平成 2・3 年度 常務理事業務分掌

業務分担	業務内容	担当者名	事項	
総務	(1)常務理事会・理事会・評議員会の組織・運営に関する事 (2)各部の連絡・調整 (3)会報の企画	浅田 隆夫 神田 俊郎	(5)全国大会代表者会議の運営 (6)全国理事・評議員名簿作成 (7)各部加盟団体調査表の発送・回収・まとめ	
会計	(1)会計処理 (2)予算立案と収支決算の報告 (3)書類・帳簿の備付と寄付行為事項等	浅田 隆夫 金森 久	(1)講習会の計画・実施及び組織の拡充(幼稚園の部・小学校の部・中・高校の部) (2)全国大会の運営・実施 ◎表彰(優良校・功労者)の中央審査 ◎大会当日の諸業務 (3)会報・研究誌の発行に関する事	菊地 明子 藤崎 敬 清水 善之 松田 智男 全常務理事
庶務	(1)各都道府県との通信連絡・報告事項 (2)各会議の記録と報告 (3)表彰に関する庶務的 (4)全国大会に関する庶務的	浅田 隆夫 岡野伊与次 神田 俊郎 清水 義之		

2) 平成 2 年度 <常務理事会の審議内容>

平成 2 年度・常務理事会(第 1 回～第 9 回)の日程と審議内容の概要を示すと、以下の通りである。

回数	審議内容
開催月日	
第 1 回	1. 役員改選について
6月29日	2. 平成元年度 事業報告、監査報告 3. 同 上 収支決算報告、監査報告 4. 平成 2 年度 事業計画案審議、承認 5. 同 上 予算案審議、承認
第 2 回	1. 平成 2 年度理事の選出について
8月7日	2. 学体連今後の運営について 3. 常務理事・業務分担について 4. 中央審査委員会の持ち方について 5. 今後の常務理事会の運営について
第 3 回	1. 北海道全国大会に向けての業務内容
8月11日	(1) 賞状(文案)・記念品について (2) 平成 4 年度以降の大会開催県の

常務理事 神田 俊郎

- 決め方について(各県へ依頼文の送付作業)
- (3) 平成 3 年度全国大会開催県(大分県)への出張について
- (4) 北海道大会当日の役割分担と業務内容
- (5) 北海道大会の準備状況について
2. 常務理事会と事務局との業務を円滑ならしめるための「申し合せ」事項について
- 第 4 回
- 9月14日
1. 前回常務理事会以後の報告—北海道大会準備と関連して
2. 北海道大会常務理事の出席確認
3. 大会に向けて準備するものの確認
4. 大会当日までの常務理事の役割分担
- (1) 代表者会議の運営に関して
- (2) 理事会・評議員会の運営に関して
- (3) 表彰式・開会式の運営に関して
- (4) 各分科会視察割当

- 第 5 回 10月8日
- 9月14日常務理事会以後の報告について
 - 北海道事務局の準備状況について
 - 文部省（体育課長）との話し合いの内容について
 - 大分県出張の報告（次年度全国大会に向けての準備状況
 - 航空券の購入について
 - 北海道大会以後の事務局の事務処理について
 - 第4回常務理事会審議、決定事項の確認について
 - 全国大会・代表者会議・理事評議員会・議事内容の検討

- 第 6 回 11月16日
- 第29回北海道大会の反省と今後の課題
 - 開会式の運営に関して
 - 講演会・シンポジウムについて
 - 分科会について
 - 代表者会議について 報告と審議
 - 理事評議員会の報告と審議
 - 大阪府評議員からの希望について
 - 中国・四国地区の理事の選出について
 - 理事の選出方法について
 - 地区とブロック及び理事・評議員数との関係
 - 各地区・ブロックの強化について
 - 全国理事評議員会のもち方について
 - 事務局の整理内容とその手順について
 - 次回第7回常務理事会の審議事項について、会報の編集・講習会の企画、その他

- 第 7 回 平成3年 1月19日
- 第31回（平成4年度）全国大会の開催地について
 - 平成3年度の講習会について
 - 学体研の象徴旗について
 - 「会報」の編集について

- 第 8 回 2月23日
- 平成3年度講習会の日程及び内容について
 - 学体連象徴旗のデザインについて
 - 「会報」の編集内容等について
 - 平成3年度以降の「会報」等の編集編集方針・内容等の問題について
 - 事務局事務の処理について
 - 事務職員について
 - 事務室内のレイアウトと物品の購入について
 - 加盟団体の交付金について

- 第 9 回 3月15日
- 会報28号の編集について
 - 仮称、季刊、学校体育研究春号、申し合せ事項について
 - 講習会のプログラムについて
 - 事務局事務について
 - 事務局職員の紹介（今泉香代子女史）
 - 事務局室内のレイアウトと物品の購入について
 - 加盟団体の交付金送付について
 - 平成2年度書類の整理と整備について

3) 「学体連の象徴旗」の制定



この図柄は「学体連」のシンボルを象徴している。シェーマの上部の円は幼児を、それを受けるかたちで3つの弧が画かれている。小さな弧から順次、小学生・中学生・高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んば

り、両腕を高くかかえて、生き生きと運動しているすがたをイメージすることができる。子どものありうべきシェーマを発展的系統的に象徴している「学校体育」のシンボリズム (Symbolism)、ないしシンボルシェマ (Symbolschema) というべきか。

このシンボル・マークの由来について — 第29回全国大会（北海道・平成2年10月18日）全国理事・評議員会において次期大会開催地（第30回・大分県）より「30周年を記念して本会の象徴旗をつくってはどうか」との提案が出され、常務理事会で検討することになっていた。幸い、3ヵ月後の去る2月の理事会で2つの図柄が提出された。このうち採用されたもののひとつがこのデザインである。なお、図柄は紫紺の地に白抜きとなっている。（浅田）

4) 職員の移動・他

本会の発展のために長らくご尽力を頂いた重田一氏が、平成3年3月末退職されました。氏は、平成2年度に入ってから体調を崩され、10月の全国大会（北海道）参加も辞退され、また、12月17日には執務中不快をもよおされ、救急車で神原病院に運ぶといった事態も生じ、さらに翌年3月初めには泌尿器疾患で入院手術、現在、予後養生されています。

5) 平成3年度講習会・研修会、全国大会の日程

大会（研究会）	日・場所	テーマ
第21回全国学校体育実技研修会 幼稚園・保育園の部	8月5日（月）6日（火） 台東区根岸小学校体育館	一人一人を生かす楽しい運動遊びの指導と講義
第21回全国学校体育実技研修会 小学校の部	8月1日（木）2日（金） 文京区立金富小学校 全領域にわたる実技研修	心身の発達の特性との関連から運動の特性を明確にし、児童が主体的に取り組む体育学習
第1回全国中学校・高等学校 保健体育実技研修会	6月29日（土） 都内高等学校体育館及び格技場	ジャズダンスと創作ダンスの指導法
第10回障害児キャンプ指導者講習会	8月25日（日）26日（月） 27日（火） 東京YMCA山中湖センター	指導力を高める障害児キャンプの理論と実践
第30回全国学校体育研究大会	11月7日（木）8日（金） 大分市民会館 他	運動のよるこびを求め、自ら進んで取り組む体育学習をめざして

このようなわけで、平成2年度は当初から事務処理がとかく滞り勝ちになり、これを常務理事が手分けして業務を分掌、処理に当たって参りました。このため、事務局は、留守番電話に頼らざるを得なくなり、関係各位には、大変迷惑をおかけいたしました。

この度、今泉香代子女史が後任の職員として来局、事務処理に当たっています。女史には毎週火・木曜日（終日）と金曜日（午後）出勤願えることになっています。何卒、連絡方よろしくお願いたします。

〈表彰状について〉

平成2年度の北海道における全国大会で、体育優良校及び功労者に対して表彰状を差し上げましたが、後援として文部省の文字が省略されていました。これについて、各県からの問い合わせがあり、理事会で審議の結果、来年度からは、表彰状の文中に「主催文部省」及び「県大会主催より表彰する」という文章をいれたいと考えています。よろしくご了承ください。（岡野）

〈分担金の納入について〉

分担金の納入は、協和埼玉銀行 新宿中央支店「1303834」に納入してください。（金森）

体温が一番近い、汗が一番遠い...

La Cala-sara

セラミック

「ベトッ、ヒヤッ、クサイッ」 サ・ヨ・ウ・ナ・ラ。



これまでのウェアの常識をはるかに超えた!!
この製品は「セラミックオースリー」を応用しています。



- 汗ではりつかない〈調湿効果〉
- カラダの冷えが少なく〈保温効果〉
- 汗の臭いをスッキリ解消〈抗菌・脱臭効果〉

あなたは通勤・通学のラッシュやスポーツのあと、流れた汗でシャツが素肌にベタベタはりついたり、汗がヒンヤリ冷えてソックとさせられたり、汗のなごりのイヤな臭いで不快な思いをしたことはありませんか？これではせっかくの仕事や勉強の前に、集中力を欠いてしまいます。また、スポーツの真快感もダイナミクスです。そのうえ体調を崩す原因にもなりかねません。

そんな悩みや不安にしっかり応えてくれるのが、いま話題のセラミックオースリー加工を使用した「ラ・カラサラ」です。原液1gで600㎡もの拡大表面積をもつソフトセラミックコートされた布地が、流れる汗の吸収・放出をスムーズに、綿の風合いを保ちます。またカラダからの輻射熱を速度にとどめ、体表面温度を失うことなく保温。さらに表面イオンの働きで優れた抗菌・脱臭効果も発揮、臭気をとばします。

これまでの素材の常識を、はるかに超えた「ラ・カラサラ」。春夏秋冬、四季の変化が大きい日本で、地中海沿岸地方のようなカラリとした気分、サラリとした感触を様々なシーンでお楽しみ下さい。

■セラミックオースリーの三大特長■

●調湿効果



汗の吸収・放出がスムーズで、綿の風合いを保ち、はりつきにくい。

●保温効果



体からの輻射熱を速度にとどめ、体表面温度を失うことなく保温。

●抗菌・脱臭効果



汗やワキガ等の体臭もスッキリ解消。

■当社は、セラミックオースリー加工商品
Tシャツ&サポートソックス(バンテリストッキング)、裾下
等を販売致しております。
今後も様々な商品の開発に取り組んでい
たいと思います。

●Tシャツやトレーニングウェア・サポータ
等に加工して、ジョギング、テニス、サッ
カー、バレーボール、バスケットボール、
陸上競技等各種スポーツのゲームや練習に。
●シャツや下着、裾下・ストッキング、スラ
ックスの裏地、ヘルメットの内パット等に

加工して、最寒さの中での作業、雨の日
の通勤、通学、チャート・映画館等(冷暖
房の効きすぎた場所)でのデートやショッ
ピング... スキー、ゴルフ、ハイキング、
キャンプ等のアウトドアスポーツに。
...その応用範囲は無敵大です。

株式会社アイン

本社/〒371 群馬県前橋市秋保町834 TEL.0272-69-0311